

2022年10月31日

各位

株式会社三井住友銀行

電気興業株式会社に「ESG/SDGs評価シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取CEO：高島 誠）は、電気興業株式会社（代表取締役社長：近藤忠登史）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」を実施いたしました。

「ESG/SDGs評価シンジケーション」は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、ESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（※2）（持続可能な開発目標）達成への貢献を評価し、取組や情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例等を還元させていただく融資商品です。

今回対象となりました電気興業株式会社は、企業経営において、一定のESG配慮及びSDGs達成に向けた取り組みと情報開示を実施されていると評価されました。

ESG配慮への取り組み及び情報開示においては、以下の点等が評価されました。

- ① 中期経営計画の基本方針として「サステナビリティ経営の推進による企業価値の向上」を掲げ、無線通信技術等を活用することで、少子高齢化による省人化推進や、地域格差の解消、安心・安全な社会の実現といった社会課題に寄与する姿勢を示しておられる点。
- ② 2021年3月に策定した成長戦略「中期経営戦略」をもとにサステナビリティ基本方針を定め、マテリアリティ（重要課題）として「職場風土・働き方改革」「コーポレートガバナンスの強化」「社会インフラ整備の貢献」「環境経営の推進」「新規事業の創出」を特定。マテリアリティのテーマ毎に定量的なKPIを設定し、各種KPI達成に向け取り組むことで、中長期的な企業価値向上を目指されている点。
- ③ 独立社外取締役3名と代表取締役1名からなる指名委員会を中心となって取締役会全体の実効性評価を実施し、客観的な視点で中長期で取り組むべき課題を明確化・開示されている点。
- ④ グループの役職員が遵守すべき法令・社会倫理について解説した「DKKグループ企業行動基準」を開示し、社会的責任を果たす企業姿勢を示されている点。

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標7（クリーンエネルギー）」、「目標11（住み続けられるまちづくり）」等に貢献されています。

三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。



当社保有の大規模太陽光発電設備（依佐美太陽光発電）



CO₂ の削減効果のある燃料電池の販売



インフラ維持のための災害復旧活動

<ご参考>

※1 ESG とは

ESG とは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDG s とは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことで

以 上